

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 1 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25780371

研究課題名(和文) 潜在的態度がもたらす社会的ネットワークからの孤立過程の解明

研究課題名(英文) Implicit attitudes and social isolation

研究代表者

五十嵐 祐 (Igarashi, Tasuku)

名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授

研究者番号：90547837

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、自己に対するネガティブな潜在的態度がもたらす不適切な対人反応が社会的ネットワークでの孤立を深刻化させるというプロセスを検証するため、大学生を対象として、顕在的自尊心および潜在的自尊心とネットワークでの対人行動との関連に着目して縦断的な検討を行った。分析の結果、潜在的自尊心の高さが対人関係の拡張を抑制するという結果が得られた。また、顕在的自尊心が潜在的自尊心を高めるといった影響過程もみられた。この結果は、潜在的自尊心が孤立を生み出すプロセスとして、他者からの排斥ではなく、むしろ関係構築への消極性の観点から解釈することが重要である可能性を示唆するものであった。

研究成果の概要(英文)：This longitudinal research investigated the process of social isolation in a social network in relation to maladaptive interpersonal reactions driven by negative implicit self-esteem. The data were collected from first-year undergraduates four times in a year. Analysis based on the stochastic actor-oriented model revealed that, under controlling for structural effects on relationship formation, high implicit self-esteem inhibited the expansion of social networks for information-seeking, and explicit self-esteem was positively associated with implicit self-esteem over time. The result implies that negative implicit self-esteem does not cause exclusion from others, but rather increase inactivity in relationship construction; and interventions to explicit self-esteem may be effective to the recovery of negative implicit self-esteem.

研究分野：社会心理学

キーワード：社会的ネットワーク 潜在的態度

1. 研究開始当初の背景

「社会的な絆を形成したい」という所属欲求は、人々を取りまく社会環境・対人環境への適応によって充足されるものである。このことは、集団内での対人的なつながり、すなわち社会的ネットワークの形成が所属欲求の充足に不可欠であることを意味する。一方、近年の日本社会では、対人環境の変化によって職場や所属集団での社会的ネットワークにおける結びつきが弱まった結果、周囲からのサポートを得られずに孤立化する個人の増加が深刻な問題となっている（内閣府、2016）。

個人が集団から孤立する過程の統合的な解明には、孤立を経験しやすい個人の特徴と、孤立を生み出してしまう集団の特徴を同時に考慮することが重要である。特に、自己に対するネガティブな態度は、孤立を生み出す要因として重要なものの、その表出は社会的に望ましくない側面を持つため、自己評定式の尺度で測定することは困難である。そこで本研究では、個人の自覚や意図を伴わない潜在的態度（Greenwald & Banaji, 1995）が、集団における社会的ネットワーク構造のダイナミクスに与える影響に着目し、(1) 事故に対するネガティブな潜在的態度に基づく統制困難で不適切な行動を無自覚的に引き起こしてしまう個人が、集団からの孤立（他者からの選択の受けにくさ）を経験するメカニズムと、(2) 個人の顕在的な態度が潜在的な態度へと収斂するメカニズムを探索的に検討する。

2. 研究の目的

本研究では、自覚や意図を伴わない潜在的態度が統制困難な行動を生起させることに着目し、(1) 自己に対するネガティブな潜在的態度が生み出す無自覚的で不適切な対人行動が集団成員からの孤立を生み出す過程と、(2) 個人の顕在的な態度が潜在的な態度に影響を及ぼす過程を、縦断的な調査を通じて検討する。

3. 研究の方法

2013年度から2016年度にかけて、国立大学の文系学部にも所属する新入生に対して調査を実施した。2013年度から2015年度は紙媒体での実施、2016年度はオンラインアンケートでの実施を行った。各年度の調査対象者はそれぞれ70名前後であり、4月、7月、10月、1月の4回にわたり、縦断調査を実施した。

主要な調査項目は以下の通りであった：(1) 社会的ネットワーク：同じ学部の新入生の中で、相談をする相手（強い紐帯）情報を得る相手（弱い紐帯）入学前からの知り合い（入学前ネットワーク）を挙げるように求めた。2013年度から2015年度は8名まで、2016年度は人数の上限を設けずに回答を求めた。(2) 自己愛傾向：自己愛傾向尺度短縮版（清

水ら、2006）を用いた。(3) 顕在的自尊心：自尊感情尺度（山本ら、1982）を用いた。(4) 潜在的自尊心：2013年度は潜在連合テスト（Greenwald & Banaji, 1995）を用いた。2014年度から2016年度は名前選好（Gebauer et al., 2008）を用いた。

分析には、Stochastic Actor-Oriented Model（Snijders et al., 2010）を用いた。モデルの従属変数は、ネットワーク全体のダイナミクスであり、どういった構造を持つ紐帯が測定時点を通じて形成されやすいかが、変化率・構造・個人の各パラメータによって表される。本研究では、(1) 変化率の効果（紐帯の変化に寄与）：時点間に紐帯が変化した程度；(2) 構造の効果（紐帯の形成に寄与）：密度、相互選択、推移性、間接関係；(3) 個人の効果（紐帯の形成に寄与）：自己愛、顕在的自尊心、潜在的自尊心に関する選択傾向、被選択傾向、他成員との類似度、選択傾向×被選択傾向の交互作用；(4) 変化率と態度との交互作用効果：自己愛、顕在的自尊心、潜在的自尊心が変化率に与える影響の交互作用の各パラメータを投入した。

4. 研究成果

本報告書では、回答の欠損が比較的少ない2016年度のデータ（73名）に関する分析結果を報告する。弱い紐帯のネットワークにおけるパラメータの推定結果（態度関連の変数のみ）を表1に示す。

(1) 時期を通じた顕在的自尊心と潜在的自尊心の変化

顕在的自尊心と潜在的自尊心のサンプル全体における平均値の推移を図1に示す。潜在的自尊心の平均値に関しては、4月から7月にかけて上昇し、その後若干低下して安定するというパターンがみられた。その一方で、顕在的自尊心の平均値については、時期を通じた明確な変化はみられなかった。また、表1の結果から、顕在的自尊心が潜在的自尊心を高める影響過程が有意であったのに対し、潜在的自尊心が顕在的自尊心を高める影響過程は有意ではなかった。

表1 パラメータの推定結果（弱い紐帯）

	推定値 (SE)
<b>態度 対人選択</b>	
自己愛（被選択傾向）	0.01 (0.01)
自己愛（選択傾向）	0.00 (0.01)
自己愛（類似度）	-0.49 (0.33)
顕在的自尊心（被選択傾向）	0.15 (0.15)
顕在的自尊心（選択傾向）	0.22 (0.12)
顕在的自尊心（類似度）	-0.22 (0.97)
顕在的自尊心（選択傾向×被選択傾向）	-0.03 (0.25)
潜在的自尊心（被選択傾向）	-0.09 (0.09)
潜在的自尊心（被選択傾向のスコア <sup>2</sup> ）	0.11 (0.11)
潜在的自尊心（選択傾向）	-0.21 (0.10) *
潜在的自尊心（選択傾向のスコア <sup>2</sup> ）	0.12 (0.08)
潜在的自尊心（類似度）	5.58 (3.83)
潜在的自尊心（選択傾向×被選択傾向）	-0.25 (0.00) *
<b>態度間の関連</b>	
自己愛傾向 顕在的自尊心	0.01 (0.03)
潜在的自尊心 顕在的自尊心	0.05 (0.14)
自己愛傾向 潜在的自尊心	0.00 (0.01)
顕在的自尊心 潜在的自尊心	0.28 (0.12) *

\*p < .05.

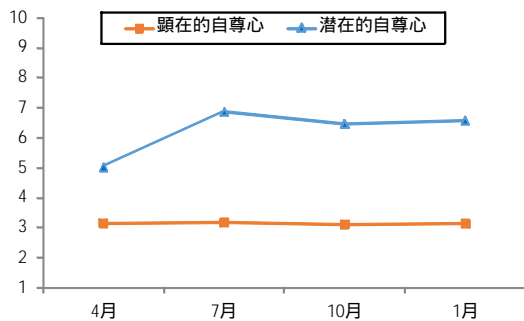


図1 顕在的自尊心と潜在的自尊心の推移 (顕在的自尊心については1から5, 潜在的自尊心については1から10の得点範囲)

潜在的自尊心を社会的受容のパロメータとして位置づけられると、この結果は、潜在的自尊心が社会的な不確実性の高い状況下で低下し、関係性の構築や対人的・社会的環境への適応に伴って上昇することを示している。また、自己評定に基づく顕在的自尊心は、対人的・社会的環境の変化に対応した変化を示さなかった。このことは、環境的な要因の影響が強い場合でも、回答者は自尊心が低いという自己評定を行わず、むしろ社会的に望ましい反応を意識的に行っていたことを示唆する。

## (2) 顕在的自尊心と潜在的自尊心が対人選択傾向に及ぼす影響

ネットワークの構造的な影響を統制した場合、弱い紐帯(表1)においては、時期を通じて、潜在的自尊心の高さがネットワークの選択傾向を抑制すること、さらに潜在的自尊心のスコアが異なるペアが形成されやすいことが示された。一方、顕在的自尊心と自己愛傾向については、ネットワークにおける対人選択行動との明確な関連はみられなかった。また、強い紐帯においては、顕在的自尊心、潜在的自尊心、自己愛傾向のいずれについても、ネットワークにおける対人選択行動との間に明確な関連はみられなかった。

## (3) まとめ

本研究では、潜在的な態度がもたらす不適切な対人反応が社会的ネットワークでの孤立を深刻化させるというプロセスを検証するため、顕在的自尊心および潜在的自尊心とネットワークでの対人行動との関連に着目して縦断的な検討を行った。

分析の結果、事前の想定通り、潜在的自尊心は対人選択傾向に影響を与えていた。しかし予測とは異なり、潜在的自尊心の高さと社会的ネットワークにおける他者からの選択されやすさには関連がなく、むしろ潜在的自尊心の高さが対人関係の拡張を抑制するという結果が得られた。これは、潜在的自尊心が孤立を生み出すプロセスとして、他者からの排斥ではなく、むしろ関係構築への消極性の観点から解釈することが重要である可能

性を示唆する。さらに、潜在的自尊心のスコアが異なるペアが形成されやすいという結果は、潜在的自尊心の低い個人が関係拡張を行うことを考慮すると、その相手として潜在的自尊心の高い個人、すなわち社会的に受容されている(=対人的環境に適応している)個人が選ばれやすい傾向を示していると考えられる。また、顕在的自尊心の高まりが潜在的な自尊心を高めるというプロセスは、意識レベルでの自尊心を高めるための介入方略やセルフフィードバックが、社会的環境への適応へのパラメータとなる潜在的自尊心の改善に効果的である可能性を示すものである。

小学生の学級集団を対象とした先行研究では、顕在的自尊心とソシオメトリーにおける被選択傾向との間には明確な関連は見られていない(Bishop & Inderbitzen, 1995)。大学生を対象とした本研究では、潜在的自尊心と対人選択行動との関連を示した点で一定の意義がある。ただし、その詳細なプロセスについては未検証であり、今後の検討課題である。

## <引用文献>

- Bishop, J. A., & Inderbitzen, H. M. (1995). Peer acceptance and friendship: An investigation of their relation to self-esteem. *The Journal of Early Adolescence, 15*, 476-489.
- Gebauer, J. E., Riketta, M., Broemer, P., & Maio, G. R. (2008). "How much do you like your name?" An implicit measure of global self-esteem. *Journal of Experimental Social Psychology, 44*, 1346-1354.
- Greenwald, A. G., & Banaji, M. R. (1995). Implicit social cognition: Attitudes, self-esteem, and stereotypes. *Psychological Review, 102*, 4-27.
- 内閣府 (2016). 社会的孤立に対する施策について～ひきこもり施策を中心に～  
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyo-Shakai/0000147785.pdf> (2017年5月31日)
- 清水健司・川邊浩史・海塚敏郎 (2006). 対人恐怖心性 - 自己愛傾向2次元モデル尺度における短縮版作成の試み パーソナリティ研究, *15*, 67-70.
- Snijders, T. A. B., van de Bunt, G. G., & Steglich, C. E. G. (2010). Introduction to stochastic actor-based models for network dynamics. *Social Networks, 32*, 44-60.
- 山本真理子・松井豊・山成由紀子 (1982). 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, *30*, 64-68.

## 5. 主な発表論文等

[学会発表](計 17件)

1. Igarashi, T. (2016, September). The manifold of individual: Expansion of human

- sociality in the networked century. *Keynote address at International Conference on Media Usage and Cross-cultural Communication under the Digital Era, Tsukuba Global Science Week 2016, Tsukuba, Japan.*
2. Igarashi, T. (Chair) (2016, July). Social networks in diverse sociocultural contexts: Parenting, psychological adjustments, and networking motivations. *Symposium conducted at the 23rd Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology, Nagoya, Japan.*
  3. Igarashi, T., & Hirashima, T. (2016, November). Does emotional intelligence work beyond dyads? From a multiple community perspective. *Paper Presented at the 1st Australian Social Network Analysis Conference (ASNAC2016), Melbourne, Australia.*
  4. Hirashima, T., & Igarashi, T. (2016, Aug.). Cross-cultural investigation of Social Networking Motivation Scale. In T. Igarashi (Chair), Social networks in diverse sociocultural contexts: *Parenting, psychological adjustments, and networking motivations, Symposium conducted at the 23rd Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology, Nagoya, Japan.*
  5. Shiraki, Y., & Igarashi, T. (2016, July). Being too proud of yourself fabricates illusory social network ties. *Paper Presented at the 31st International Congress of Psychology Yokohama, Japan.*
  6. 五十嵐 祐・平島 太郎 (2016, 9月). How does Emotional Intelligence expand social relationships? A perspective from network-based personal communities. *日本社会心理学会第 57 回大会. 関西学院大学*
  7. 平島 太郎・五十嵐 祐 (2016, 9月). Do ambivalence promote formation of ambivalent social networks? The effect of attitude ambivalence on social selection. *日本社会心理学会第 57 回大会. 関西学院大学*
  8. Igarashi, T., & Hirashima, T. (2016, February) "Being everyone's friend" is shunned by everyone: Social networking motivations as origins of social selection process. *The 17th annual meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Diego, USA.*
  9. 五十嵐祐・平島太郎 (2015). The interplay of safety and effectance motivation in social networks. *日本グループ・ダイナミックス学会, 奈良大学.*
  10. 五十嵐祐・平島太郎・加藤仁 (2015). Do the perceptions of relational mobility work as "second sight" of dynamics in the second-order network zone? A Longitudinal Analysis. *日本社会心理学会第 56 回大会, 東京女子大学.*
  11. Igarashi, T. (2014, May). Culture and diversity of social networks. *Meeting on "Culture-Sensitive Health Communication," Erfurt University, Germany.*
  12. Hirashima, T., Igarashi, T., & Asano, R. (2014, May). The Social Networking Motivations Scale: Examining factorial and criterion validity. *Poster session presented at the 26th Annual Meeting of the Association for Psychological Science, San Francisco, CA, USA.*
  13. Hirashima, T. & Igarashi, T. (2015, February). Social network motivations and ego-centric network structures. *Poster session presented at the 16th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, Long Beach, CA, USA.*
  14. 平島太郎・五十嵐祐 (2014, 7月). 社会的ネットワーク行動の動機づけとエゴセントリック・ネットワーク構造: 大学生サンプルにおける検討 *日本社会心理学会第 55 回大会 北海道大学*
  15. Igarashi, T. (2013, November). Social networks in our mind: From perception to motivation. *Invited workshop at Trends in Social Network Research, Taipei Workshop 2013, Academia Sinica, Taipei.*
  16. 五十嵐祐・加藤仁 (2013, 9月). 自尊心と自己愛傾向に基づく対人選択過程: 行為者志向型ネットワーク選択モデルによる検討 *日本社会心理学会第 54 回大会 沖縄国際大学*
  17. Igarashi, T. (2013, August). Loneliness, trust and perception of positions in triads. *Poster session presented at the 5th Asian Congress of Health Psychology, Daejeong, Korea.*
6. 研究組織
- (1) 研究代表者  
五十嵐 祐 (IGARASHI TASUKU)  
名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授  
研究者番号: 90547837